

現代神学 第6回  
オンデマンド動画 第3回

## 解放の諸神学

小原 克博

1

## Overview

1. ラテンアメリカ解放の神学
2. 黒人神学
3. フェミニスト神学
4. 今回の課題

2

1

## ラテンアメリカ 解放の神学

3

## ラテンアメリカの状況

- ・ 過酷な植民地主義の傷跡
- ・ スペイン・ポルトガルの入植者たちは、先住のインディオたちから土地と文化を収奪し、奴隷化した。
- ・ 北半球（特にアメリカ）に依存せざるを得ない経済システム
- ・ 開発主義（1950～60年代）がもたらしたもの
- ・ 軍事独裁政権と多国籍企業 → 民衆の貧困と抑圧

4

## 解放の神学の成立

- ・ 前提としての「民衆」：「キリスト教基礎共同体」における活動
- ・ **第二バチカン公会議**（1962-1965年）
  - ・ 教会と現代世界との対話（カトリックの現代化）
  - ・ 諸教会の一致
  - ・ カトリック教会自体の回心
- ・ 第二回ラテンアメリカ司教会議（コロンビアのメデリン、1968年）
  - ・ グスタボ・グティエレス（ペルー、1928-）が「**解放の神学**」を提唱。

5

## G. グティエレス『解放の神学』（1971年）

- ・ キリストは、終末論的約束を霊的なものとはしない。
- ・ J.モルトマンの「希望の神学」を評価。
- ・ 希望は歴史的实践のただ中に根ざしたものでなければならない。そうでなければ、希望は単なる逃避、未来の幻想にすぎない。



6

## 解放の神学の特徴

- ・ 聖書を読み直す主体は「民衆」である。
- ・ 「民衆」＝貧しい人々
- ・ 聖書の解釈そのものより、「聖書による」人々の生活の解釈（理解）の方が重要とされる。

7

## 「罪」とは？

- ・ 貧困や抑圧などの不正義を「**制度化された暴力**」による〈罪の状態〉とした。
- ・ 内面的な罪のみならず、現世的・社会構造的罪からの解放と、より人間的・福音的な社会への解放を目指す。
- ・ **マルクス主義**を方法論として用いる。
  - ・ 1) 経済的要因の重要性。2) 階級闘争への着目。3) イデオロギーの力への注目
- ・ 1980年代、バチカンから、マルクス主義との関係を厳しく批判された。その急先鋒はヨーゼフ・ラッツィンガー（前教皇ベネディクト16世）。

8

## 「貧しい人々」の優先的立場

- ・ 貧しい人々=政治的・経済的な被抑圧者。
- ・ 近年の解放の神学は「階級的」概念を越えようとしている。
  - ・ 「貧しい人々」=黒人、先住民、女性。
- ・ 貧しい人々を選択するための神学的根拠
  - ・ 神論的根拠：出エジプト記 3:7-10 「彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った」
  - ・ キリスト論的根拠：ルカ福音書 6:20 「貧しい人々は幸いである」、7:21-22
  - ・ 終末論的根拠：マタイ福音書 25:40 「最も小さい者の一人にしたのは、…」
  - ・ 使徒的根拠：ガラテヤ書 2:10 「貧しい人たちのことを忘れないように」

9

## 神論的根拠：出エジプト記 3:7-10

主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの**民の苦しみ**をつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ**彼らの叫び声**を聞き、その痛みを知った。 それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上る。 見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを**圧迫する有様**を見た。 今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。

10

## キリスト論的根拠：ルカ福音書 6:20, 7:21-22

さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「**貧しい人々**は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。(6:20)

そのとき、イエスは病気や苦しみや悪霊に悩んでいる多くの人々をいやし、大勢の盲人を見えるようにしておられた。それで、二人にこうお答えになった。「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、**貧しい人々**は福音を告げ知らされている。(7:21-22)

11

## 終末論的根拠：マタイ福音書 25:37-40

すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。 いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。 いつ、病気をなざったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの**最も小さい者**の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

12

## 使徒的根拠：ガラテヤ書 2:10

ただ、わたしたちが**貧しい人たち**のことを忘れないようにとのことでしたが、これは、ちょうどわたしも心がけてきた点です。

13

## 「神の国」とは？

- ・ 神の国は歴史的解放の中に待望され、受肉する。
- ・ 解放の神学によるイエス理解と、最新の聖書学によるイエス理解（史的イエス研究）は接近している部分がある。

14

## 解放の神学の影響史

- ・ フィリピンの反マルコス独裁闘争（1986年）
  - ・ ピープル・パワー革命
- ・ 韓国の民衆神学による民主化運動（1970年代）
- ・ 南アフリカにおける反アパルトヘイト闘争
  - ・ 1990年、アパルトヘイトの終結を宣言。1994年、マンデラが大統領に就任。
- ・ 黒人神学、フェミニスト神学

15

## 【参考文献】

- ・ グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、1985年。
- ・ レオナルド・ボフ、クロドビス・ボフ『入門 解放の神学』新教出版社、1999年。
- ・ 栗林輝夫『現代神学の最前線——「バルト以降」の半世紀を読む』新教出版社、2004年。
- ・ 芦名定道『現代神学の冒険——新しい海図を求めて』新教出版社、2020年。

16

# 2

## 黒人神学

17

## 奴隷制

- ・ アメリカ黒人は、16世紀初頭から19世紀半ばまでの400年の間、西洋人によってアフリカ（主として西アフリカ）から連れてこられた者の子孫。
- ・ 1000万人以上のアフリカ人が南北アメリカに強制移住させられ、過酷な労働に従事させられた。
- ・ アフリカ人の多くは、部族ごとの宗教を持ちながら、一部は、キリスト教やイスラームを受容していた。

18

## 奴隷制を正当化するために用いられた聖書箇所

しかし、あなたの男女の奴隷が、周辺の国々から得た者である場合は、それを**奴隷**として買うことができる。あなたたちのもとに宿る滞在者の子供や、この国で彼らに生まれた家族を奴隷として買い、それを財産とすることもできる。彼らをあなたの息子の代まで財産として受け継がせ、永久に奴隷として働かせることもできる。しかし、あなたたちの同胞であるイスラエルの人々を、互いに過酷に踏みにしてはならない。（旧約聖書「レビ記」25:44-46）

※ 奴隷制に対する異論が出てくるのは17世紀後半から。クエーカーは神の前の平等を主張。

19

## 黒人奴隷と聖書（1）

- ・ 出エジプト記（モーセおよびヨシュアらの導きによってカナンへ）
- ・ 「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、**捕らわれている人に解放を**、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」（ルカ 4:18-19）

20

## 黒人奴隷と聖書（2）

- ・ 「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、**奴隷**も自由な身分の者もなく、男と女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」（ガラテヤ書 3:28）
- ・ 十字架にかけられたイエスに対する強い共感。

21

## Deep River（黒人霊歌）

Deep river, my home is over Jordan,  
Deep river, Lord,  
I want to cross over into campground.  
Oh don't you want to go to that gospel feast,  
That promis'd land where all is peace?  
Oh deep river, Lord,  
I want to cross over into campground.

22

## 公民権運動 — 黒人神学の前史 —

## M. L. キング, Jr. (1929-1968)

- ・ 1955年、モンゴメリーのバス・ボイコット運動を指導。
- ・ 1959年、インドをおとずれ、ガンディーが追求した大衆的非暴力抵抗運動に影響を受ける。
- ・ 1963年、ワシントン大行進「私には夢がある。いつかジョージアの赤い丘で奴隷の子孫と奴隷所有者の子孫が兄弟として同じテーブルにつく夢が」
- ・ 1964年、ノーベル平和賞受賞。
- ・ 1967年、ベトナム戦争への批判（アメリカの三重の悪：人種差別、貧困、軍国主義）。
- ・ 1968年、暗殺される。

23

24



Atlanta, 2003

25

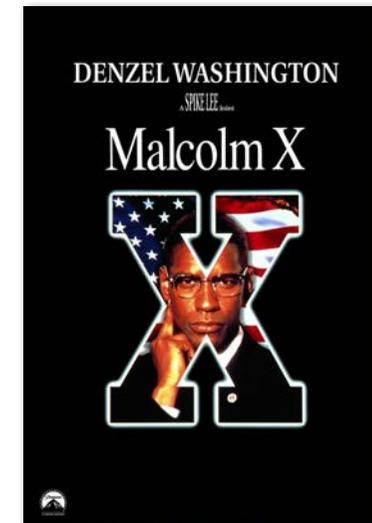


26

## マルコムX (1925-1965)

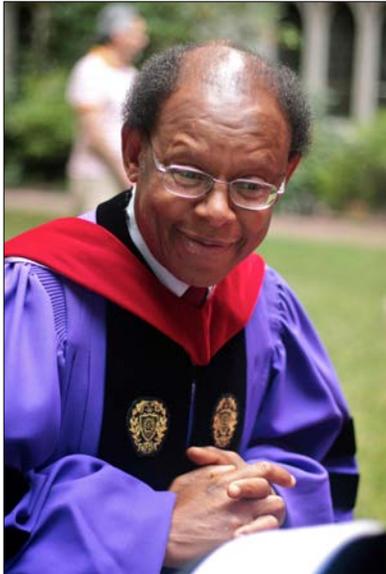
- ・ キング牧師らの非暴力主義による黒人運動に反対し、暴力による権利獲得をめざした。
- ・ 1946年、強盗罪で刑務所におくられたマルコムは、服役中、ネーション・オブ・イスラムの教えに触れる。
- ・ 1960年代初頭、ネーション・オブ・イスラムのもっとも有名なスポークスマンとなる。
- ・ 1964年、脱退。メッカを巡礼。
- ・ 1965年、暗殺される。

27



1992年、米国作  
主演：デンゼル・ワシントン

28



## 黒人神学の形成

29

## 黒人神学の形成

- ・ ジェームズ・H・コーン (1938-)
- ・ 人種隔離政策の中で成長する。黒人を差別する白人たちが同じ神を信じていることへの疑問。
- ・ 1950~60年代の公民権運動の影響を受ける。
- ・ 白人中心の抽象的神学を批判。

30

## コーンの代表的著作

- ・ Black Theology and Black Power, 1969.  
『イエスと黒人革命』新教出版社、1971年。
- ・ A Black Theology of Liberation, 1970.  
『解放の神学——黒人神学の展開』新教出版社、1973年。
- ・ The Spirituals and the Blues, 1972.  
『黒人霊歌とブルース——アメリカ黒人の信仰と神学』新教出版社、1983年。
- ・ God of the Oppressed, 1975. 『抑圧された者の神』新教出版社、1976年。
- ・ Martin & Malcom & America: A Dream or a Nightmare, 1991. 『マーティンとマルコム、そしてアメリカ——夢か悪夢か』日本基督教団出版局、1996年。

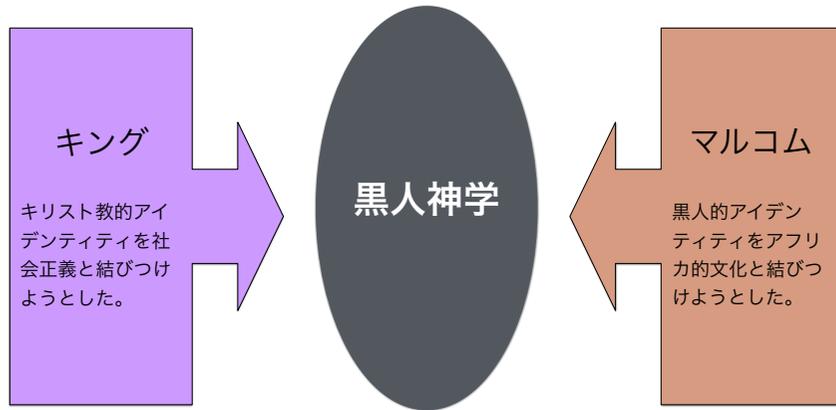
31

## コーンの神学の特徴

- ・ キングの integrationism (統合主義) とマルコムの nationalism (民族主義) を相補的にとらえようとしている。
- ・ キングは、かつて人種隔離制度を内面から支えていた個人主義的贖罪信仰を、地上のもっとも小さい者たちの連帯性の戦いへと解放した。
- ・ マルコムは黒人的アイデンティティの重要性を教えてくれた。

32

## 黒人神学の特徴



33

## 『解放の神学——黒人神学の展開』から（1）

- ・ 白人は死の現実から逃れようとする。彼ら（黒人）は、白人を見るたびに死を見ているのである。
- ・ 本来の終末論的展望は歴史的現在に根拠を持たなければならない。現在の秩序に挑戦しないような終末論的展望では不十分である。
- ・ われわれ自身の子供たち苦痛や苦悩を見捨てたままにしなければならないとしたら、永遠の生命でさえ何の益があるのか。

34

## 『解放の神学——黒人神学の展開』から（2）

- ・ モルトマンの分析は黒人神学の関心と矛盾しない。
- ・ 黒人の関心を天国に向けることは白人奴隷主に起因する。しかし、天国はもはや、現実の不正義を受容するためには用いられない。天国を信じるということは、地上の地獄を受け入れることを拒絶することである。

35

## 影響史：コーン以降の黒人神学

- ・ 第二世代
  - ・ コーネル・ウェスト（Cornel West）：社会科学的分析を加える。
- ・ 第三世代
  - ・ ジェームズ・H・エヴァンス（James H. Evans）：本格的な組織神学を展開。

36

## 【参考文献】

- ・ 梶原寿『解放の神学』清水書院、1997年。主として黒人神学を扱っている。
- ・ コーネル・ウェスト『人種の問題——アメリカ民主主義の危機と再生』（山下慶親訳）新教出版社、2008年。
- ・ 黒崎真『アメリカ黒人とキリスト教——葛藤の歴史とスピリチュアリティの諸相』神田外語大学出版局、2015年。
- ・ 山下壮起『ヒップホップ・レザレクション——ラップ・ミュージックとキリスト教』新教出版、2019年。
- ・ ジェイムズ・H・コーン『誰にも言わないと言ったけれど』（榎本空訳）新教出版社、2020年。

37

# 3

## フェミニスト神学

38

## フェミニスト神学の歴史

- ・ 前史：エリザベス・スタントン『女性の聖書』（1898年）
  - ・ 「これは神の言葉を聞き間違えた男たちの言葉である」
- ・ 1960年代後半にアメリカを中心に広まった女性解放運動の一部として、フェミニスト神学は始まった。
- ・ メアリー・デイリー『父なる神を越えて』（1973年）
  - ・ 「神が男性であるなら、男性が神である」

39

## フェミニスト神学の目的

- ・ キリスト教における男性中心主義に対する批判とその克服。
- ・ フェミニスト神学は、単に「女性的」テーマを考察するのではなく、神学のあり方を根本的に問い直す。

40

## フェミニスト神学の位置づけ

現代世界においては多様な女性理解が存在している。



41

## フェミニスト神学の特徴

- ・ 実体より関係を Relation over substance
- ・ 不変より変化を Change over immutability
- ・ 救済より解放を Liberation over salvation
- ・ 終末論より生態論を Ecology over eschatology

42

## フェミニスト神学の成果と展望

1. キリスト教の歴史的起源の再解釈
2. 女性の視点による聖書解釈の見直し
3. 「包含的言語」による聖書翻訳
4. 新しい神理解の形成
5. 異文化に生きる女性同士の連帯
6. エコロジー問題への新しい視座の提供
7. セクシュアル・マイノリティとの方法論的連帯

43

## 1. キリスト教の歴史的起源の再解釈

- ・ 最初期、イエスによって促された伝統的価値観からの自由は、特に終末待望に裏付けられた宣教的情熱と結びついて存続した。そこでは男女が平等に参与する共同体が存在していた。
- ・ 後に、ヘレニズム・ローマ社会の家父長制や性的二元論に順応するようになっていく。

44

## 2. 女性の視点による聖書解釈の見直し

- ・ 男性の解釈者によって、しばしば無視されてきた、女性をめぐる言説・物語を再発見する。
- ・ 性差別表現を含め、聖書中に性・性役割に関して内容的にはっきりと矛盾する箇所があることを認識することによって、ある特定の箇所が排他的に用いられることの恣意性と危険性を喚起する。
- ・ コロ3:18（男女の支配・服従の関係を強化）とガラ3:28（それを否定）
- ・ 一テモ2:15（性と生殖とが一致した家父長制社会を代弁）とルカ11:27-28（それを破棄）

45

## 3. 包含的言語（inclusive language）による聖書翻訳

- ・ 両性に対し平等であるよう、聖書翻訳や礼典の表現が見直されている。
- ・ 例：「主の祈り」における神への呼びかけ
  - ・ Our Father in heaven
  - ↓
  - 1) Our heavenly Parent
  - 2) Our Father-Mother in heaven
  - 3) Abba God in heaven

46

## 4. 新しい神理解の形成

- ・ 神の女性性を表す伝承に注目する。
- ・ たとえば、知恵文学における「知恵」（ソフィア）の働きや、ガイアとしての神など、従来の神理解には見られなかった側面を際立たせている。

47

## 5. 異文化に生きる女性同士の連帯

- ・ 「女性」という言葉によって、もっぱら白人女性を意味していた、という初期フェミニズムへの反省を継承しながら、欧米以外の女性の声に積極的に耳を傾けようとする。
- ・ しかし、「女性」の視点の多様性と普遍性をどのように理解するかについては、今も議論が続いている。

48

## 6. エコロジー問題への新しい視座の提供

- ・ 代表的なフェミニスト神学者たちの多くは、エコロジーの問題をフェミニスト神学の重要な課題と考えている。
- ・ 男性によって抑圧されてきた女性と、人間（男性）によって抑圧されてきた自然の間に相関関係を見ている。
- ・ 環境の神学——サリー・マクフェイグ「神の体」 (The Body of God)
  - ・ 世界を「神の体」とみなすメタファーとしての有効性と共に限界も自覚している。"I am not even afraid of pantheism; the line between God and the world is fuzzy" (S. McFague, *A New Climate for Theology: God, the World, and Global Warming*, 2008, p.120).

49

## 7. セクシュアル・マイノリティとの方法論的連帯

- ・ 同性愛者は伝統的に性差別の対象とされることが多かったが、フェミニスト神学が獲得してきた聖書解釈や神学上の方法論は、セクシュアル・マイノリティのアイデンティティ獲得のためにも有益である。
- ・ 「クィア神学」の形成

50

## 【参考文献】

- ・ R=R・リューサー『性差別と神の語りかけ——フェミニスト神学の試み』新教出版社、1996年。
- ・ エリザベス・シュスラー・フィオレンツァ『彼女を記念して——フェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築』日本基督教団出版局、1990年。
- ・ E・モルトマン=ヴェンデル、J・モルトマン『女の語る神・男の語る神』新教出版社、1994
- ・ 大越愛子『女性と宗教』岩波書店、1997。（諸宗教における性差別を扱っている）
- ・ 宮谷宣史編『性の意味——キリスト教の視点から』新教出版社、1999年。
- ・ パトリック・チェン『ラディカル・ラブ——クィア神学入門』新教出版社、2014年。

51

## 4 今回の課題（600～800字）

1. リーディング・アサインメント（小原克博「解放の神学」 「神のジェンダーに関する一考察——フェミニスト神学との対論を通じて」、J・H・コーン『誰にも言わないと言ったけれど』2章）を読んでください。
2. 上記の内容と今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください。

52